



著者プロフィール

井越芳子（いごし・よしこ）

1958年 東京生まれ

1984年 「哇」入会

1995年 「青山」入会

2003年 第一句集『木の匙』刊行

現在 「青山」同人

俳人協会幹事、国際俳句交流協会会員

〈句集『鳥の重さ』より転載〉〈2007年9月25日時点〉

『鳥の重さ』（自選十五句）

井越 芳子

触れる木の真上にのぼる春の月
遠花火われしづかさの底にゐる
夏の蝶檻の内かと思ふ
一本が遠くから見え秋の薔薇
秋冷の日の芯見えてきたりけり
秋の海改札口を暗くする
遠き木のまま岳樺黄葉せり
けふ咲いてゐる花ふゆのはなわらび
降る雪や耳は眠りの外に立つ
にはとこの花のジュースと蒸饅
午後の日の押し寄せてゐる金魚玉
かたちなき水かたちなき沼の秋
秋の水ひかりの底を流れをり
五月雨や石はあかりのやうにあり
水底を見にゆく衣更へにけり